

道具学会／道具学研究発表フォーラム2025 開催要項

日時：2026年2月14日（土）～15日（日）

会場：日本工業大学 埼玉キャンパス <https://www.nit.ac.jp/>

〒345-0826 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4丁目1



工作機械の全貌に迫る 道具をつくる道具たちの世界

今年度の道具学研究発表フォーラムは、日本工業大学（担当：細田彰一教授）埼玉キャンパスでの開催です。

日本工業大学は、「実工学教育」を基本理念に掲げ、実践的技術者を育てることを教育目標としています。そのような理念のもと設置されたのが「工業技術博物館」です。この博物館の館長である清水伸二教授による基調講演を中心に、学芸員のご案内による博物館見学を行います。工作機械（機械のマザーマシン）を目のまえにし、「道具をつくる道具たち」から、日本の工業技術の原点を探ります。さらに、恒例の会員による「口頭研究発表」での道具学ディスカッション、翌日は体験型エクスカーションを企画しています。



工業技術博物館

<https://museum.nit.ac.jp/about/>



基調講演／清水伸二氏：工業技術博物館 館長

工作機械の歴史を振り返り、その本質を知る



工作機械は、世の中のあらゆる機械を作り出しており「機械を作る機械」と呼ばれています。したがって「機械をつくる道具」と言えるかと思います。「道具」の定義を調べてみると器具の総称となっており、器具とは、ある目的のために使われる道具や、手で操作する簡易的な機械とされています。一方、機械は、動力を必要として、一定の動きを繰り返すものとされています。これらを総合すると現在の工作機械は「動力を使ってものをつくる道具」と定義できるかと思います。ここでは、ものを作る道具としての「工作機械」の歴史を振り返り、改めて工作機械の本質について考えてみたいと思います。

1948年生まれ、1972年上智大学理工学部機械工学科卒業。1973年（株）大隈鉄工所（現オークマ㈱）入社。1981年上智大学大学院理工学研究科機械工学専攻博士後期課程修了後、同年同大学機械工学科助手、2007年上智大学理工学部機能創造工学科教授、2014年同学科定年退職、名誉教授、自営コンサル事務所MAMTEC代表に就任。2019年日本工業大学客員教授、同大学工業技術博物館館長に就任。その他、砥粒加工学会顧問、産業界各種機関・団体の贈賞、助成などの選考委員長、委員などをつとめている

TIME TABLE：開催プログラム

2月14日（土）

- 10:30 開会
10:45 基調講演

12:00 昼食

13:00 博物館見学

15:15 口頭研究発表
18:30 閉会

道具学研究発表フォーラム

- 開会挨拶／テーマ解題
- 基調講演／質疑応答 75分

工業技術博物館見学 120分

- 口頭研究発表／質疑応答 約200分
- 閉会挨拶

- 19:00 開会
21:00 閉会

交流会 ●校内レストラン「カフェトレビ」 120分

2月15日（日）

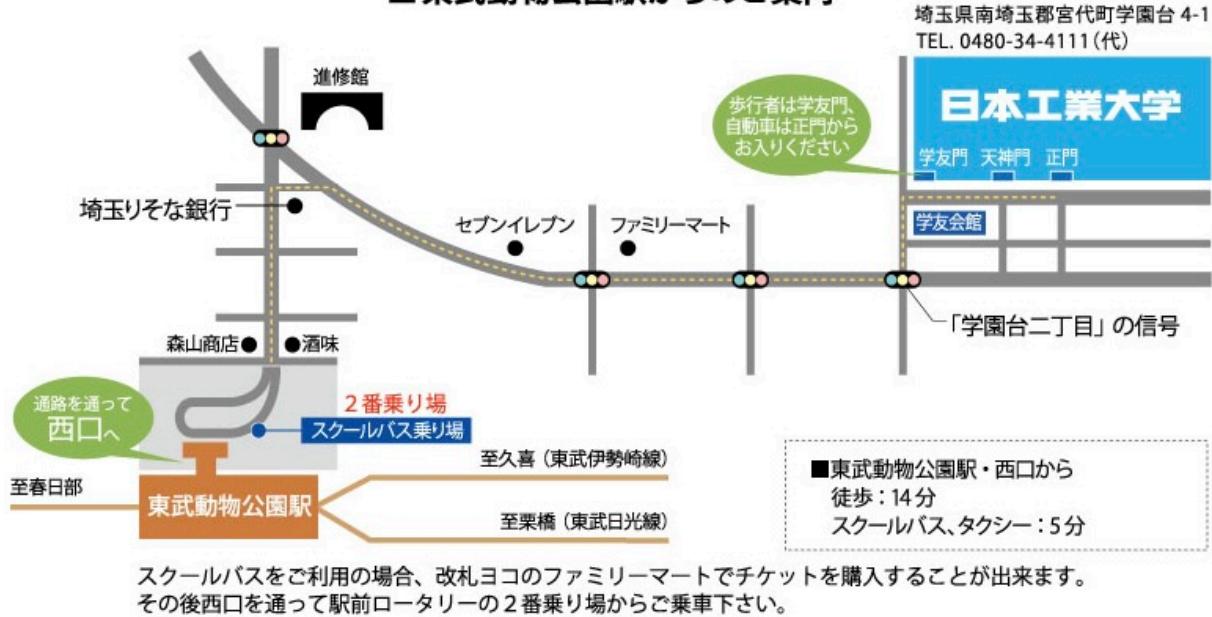
- 11:00 南桜井駅集合
16:30 越谷駅解散

エクスカーション

- 防災地下神殿（春日部市）首都圏外郭放水路見学ツアーアー
- 木下半助商店（越谷市）有形文化財・建造物見学

大学アクセス案内

■東武動物公園駅からのご案内



キャンパスマップ



口頭研究発表プログラム

持時間各25分（発表20分+質疑5分）

進行：石川義宗 研究委員会委員長

15:15～18:30

1 大坪 紗那 造船技師・イラストレーター・デザイナー

●生成AI時代におけるクリエイターの姿論：百姓という価値（仮）

2 安部 涼 GKダイナミックス・プロダクトデザイナー

●道具は、人のあいだでカタチになる（仮）

3 鈴木 稜大 パナソニックサイクルテック株式会社

●日本語の文法構造に着目したアイデア発想法：「ひらめきワーク」（仮）

4 福本 直之 有限会社イマージョン代表

●釣り道具の双方向性：フィードバックとフェアネス（仮）

16:55 コーヒーブレイク（10分）

5 増川 正久 AGT研究所 主宰

●AGTの魅力：高品質な都市の道具としての再定義と未来

6 比留間 雅人 会社員／博士（商学）

●道具の動態的理解あるいは道具の教育機能に関する視点

7 面矢 慎介 滋賀県立大学名誉教授

●道具の歴史研究のための資料とコレクション

18:20～18:30 閉会挨拶および翌日のエキスカーションのご案内

19:00～21:00 交流会の開催：校内レストラン／カフェトレビ 120分

15日（日）エキスカーション

集合場所：南桜井駅北口 11:00AM

11:30～13:30 (コース見学時間12:00～13:00)

防災地下神殿「首都圏外郭放水路」見学ツアー

春日部市にある「首都圏外郭放水路」は、首都圏を洪水から守るためにつくられた世界最大級の地下放水施設です。地下約22mに広がる巨大な調圧水槽は、まるで神殿のような迫力。都市防災における最新設備として、川の水を安全に逃がす仕組みを間近で見ることができます。普段は入れない地下空間を歩きながら、私たちの暮らしを支える防災の知恵をやさしく学べる、驚きと発見に満ちた見学体験です（有料）。



所在地／〒344-0111 埼玉県春日部市上金崎720 公式Site <https://gaiaku.jp>
写真提供：国土交通省江戸川河川事務所

15:00～16:30

木下半助商店（越谷市）有形文化財建造物見学



道具学会が、過去3年に渡り調査・記録を続けた「木下半助商店」は、越谷宿の歴史を伝える有形文化財建造物です。商家建築ならではの土間や梁、蔵造りに、商いと暮らしを支えた道具としての建築の知恵が息づいています。生活・流通・建築が一体となった空間は、道具学の視点から当時の合理性や工夫を体感できる魅力的な見学先です。

（大沢匠理事による案内）

所在地／埼玉県越谷市中町7-20

観光協会 <https://www.koshigaya-sightseeing.jp/spot-play/spot/木下半助商店/>